

## 米国の関税とベトナムのサプライチェーン転換－産業への影響

### 米国新的な関税枠組み

2025年7月2日、米国とベトナムは新たな貿易枠組みで合意しました。これに基づき、大半のベトナム产品には20%の「相互関税」が、ベトナムで最小限の加工後に再輸出されると疑われる产品には40%の「積み替え関税」が導入されました。これらの措置は原産地偽装を防止し、域内貿易フローの透明性を高めることを目的としています。

ベトナムの貿易基盤として、裾野産業は国内生産と輸入資材を結びつけ、電子機器、自動車、繊維、消費財などの分野に投入材・原材料を供給する上で重要な役割を担ってきました。米国の積み替え関税がより厳格な原産地検証とサプライチェーン監査を導入する中、これらの産業はコンプライアンスと競争力の両面で影響を受けやすい立場にあります。ベトナムにとって新たな関税制度はリスクであると同時に再構築の機会でもあり、サプライチェーンの透明性強化、調達先の多様化、国内での付加価値創出の拡大が急務であることが浮き彫りとなっています。

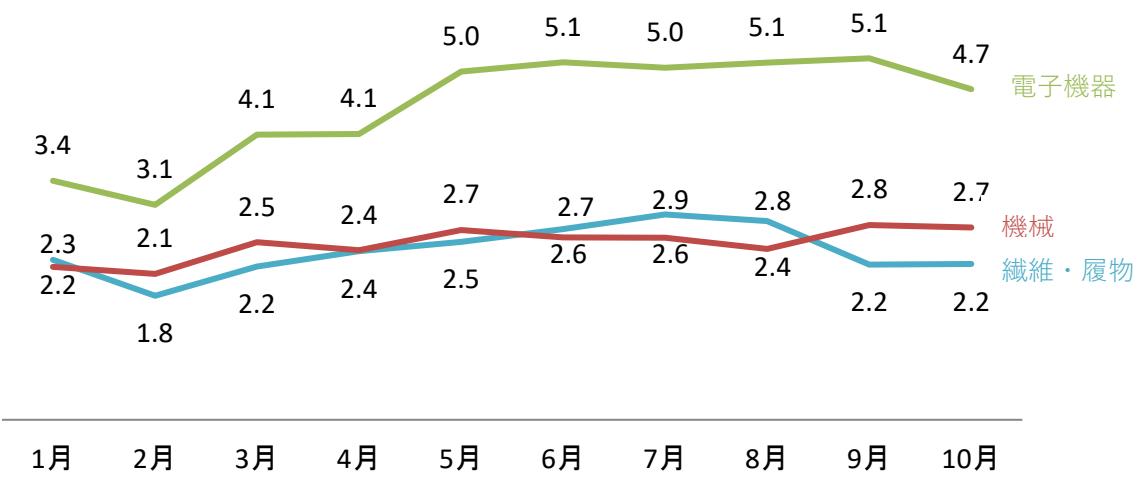
こうした背景のもと、本稿はベトナムの裾野産業において重要な三つの分野、電子機器、機械、繊維・履物向けの原材料に焦点を当てていきます。

### ベトナムの裾野産業の対米輸出

2025年8月初旬に米国関税が適用された後、米国向け電子機器、機械、繊維・履物の輸出に変化の兆しが見られました。これら3分野はいずれも上半期に堅調な伸びを記録しましたが、8月以降は輸出額が横ばいまたは減少に転じ、特に繊維と電子機器で顕著でした。この傾向は、関税が需要を即座に急減させたわけではないものの、輸入原材料に大きく依存する裾野産業の製品の輸出を弱めたことを示唆しています。輸入構造を分析することで、ベトナムが直面する関税リスクへの影響と産業高度化の機運を確認していきます。

## ベトナムの対米輸出額（産業別、2025年1-10月）

単位: 十億ドル



出所: [General Statistics Office](#)

## ベトナムにおける主要裾野産業の調達動向

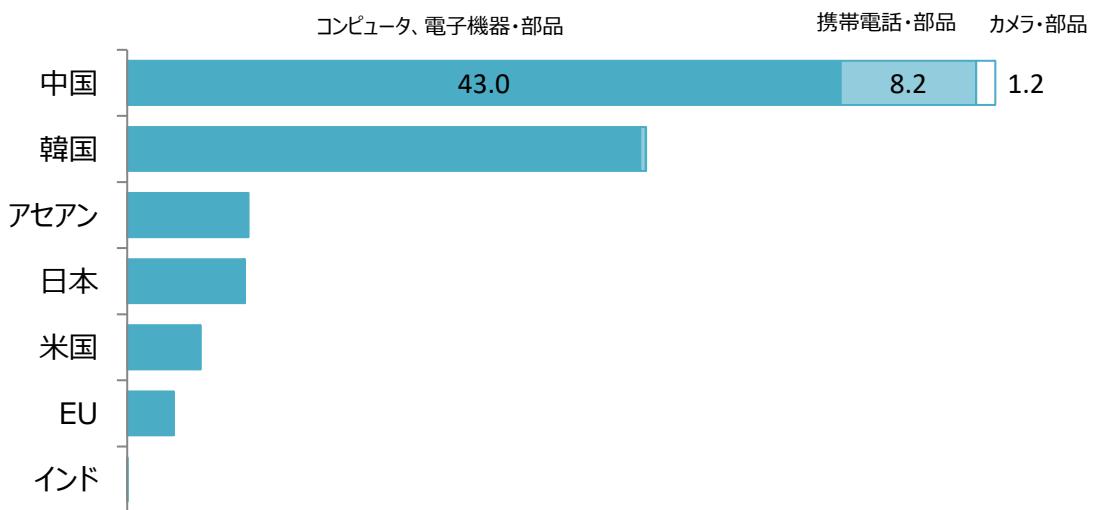
### (i) 電子機器

電子機器はベトナム製造業の中核を成し、総輸出額の3分の1以上を占め、ベトナムを電子機器・コンピュータ・関連部品の世界第5位の輸出国に押し上げています。しかし2025年1月から10月にかけて、ベトナムは中国から電子機器関連の投入材・原材料を約430億ドル相当輸入し、同国からの輸入が同分野の総輸入額のほぼ半分を占めています。これは、ベトナムが重要な製造工程において中国産の投入材・原材料に大きく依存していることを示しています<sup>1</sup>。

<sup>1</sup> <https://en.vneconomy.vn/electronics-sector-needs-to-be-in-transformation.htm>

## ベトナムの電子機器関連品目の輸入額（2025年1-10月）

単位: 十億ドル



出所: [General Statistics Office](#)

この産業構造は、米国の積み替え関税措置下において同セクターを高いリスクに晒しています。構成部品の最大 80%が輸入され、一次サプライヤーの 90%以上が外国企業であるため、国内での付加価値創出は組み立てや低付加価値工程に偏ったままになっています。その結果、ベトナム企業は外国の政策変更やサプライチェーンの混乱に対して極めて影響を受けやすい状況が続いている<sup>2</sup>。

業界関係者の中には、米国の関税を単なる制約ではなく、構造転換の契機と捉える見方が広がってきてています。コンプライアンスコストの増加とグローバルサプライチェーンの変容により、ベトナムは単なる組立拠点としての役割を見直す必要に迫られています。これに対応するため、最近の政策では、現地での研究・設計・製造能力の強化に注力すると同時に、先端電子機器、半導体、AI 関連アプリケーション分野へのハイテク投資誘致に力を入れています<sup>3</sup>。

<sup>2</sup> <https://en.vneconomy.vn/electronics-sector-needs-to-be-in-transformation.htm>

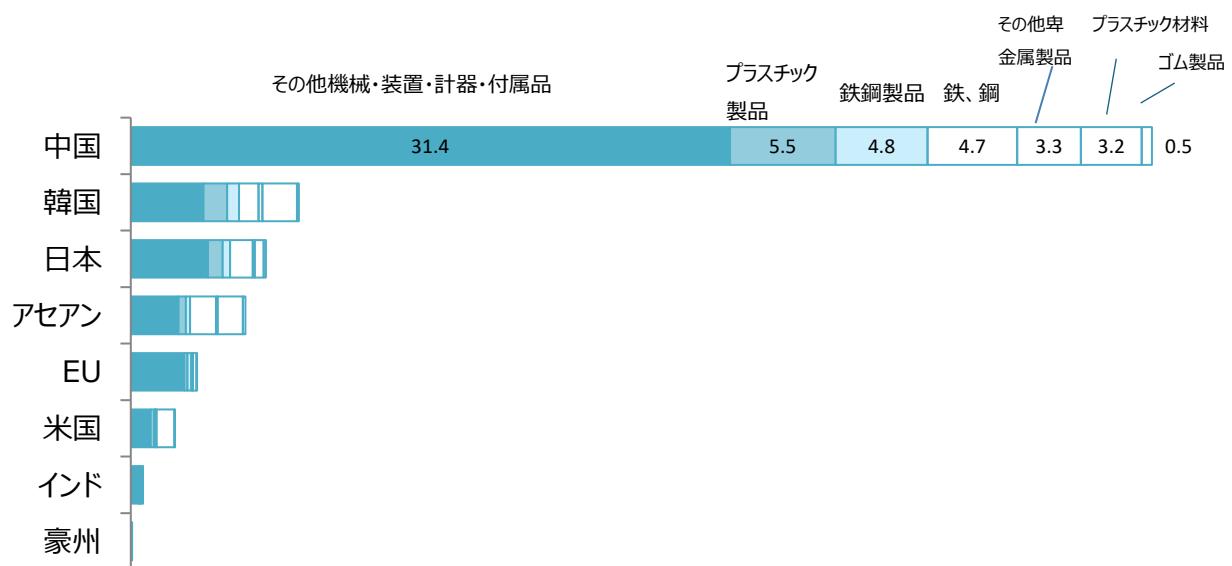
<sup>3</sup> <https://en.vietnamplus.vn/pm-chairs-national-committees-meeting-on-semiconductor-development-post323916.vnp>

## (ii) 機械

機械工業はベトナムの工業化の基幹産業であり、製造業の拡大とインフラ開発に不可欠な機械、部品、設備を供給してきました。2025年1月から10月までの間、ベトナムは鉄鋼、非鉄金属、プラスチック、ゴム、産業機械を含む機械関連の投入材・原材料を中国から約530億ドル相当輸入し、同国からの輸入が同分野の総輸入額の大半を占めています。特に、精密機械加工や重工業分野において、ベトナムが外国製品への依存を継続していることを示しています。

### ベトナムの機械関連品目の輸入額（2025年1-10月）

単位: 十億ドル



出所: [General Statistics Office](#)

M-TALKS フォーラム 2025 では、専門家らは機械分野がグローバルなサプライチェーン再編の中ですますます戦略的な役割を担いつつあると指摘しています。南北高速道路やロンタイン国際空港といった大規模公共インフラプロジェクトが、先進設備・加工ソリューション・自動化システムに対する国内需要を牽引している一方で、米国の相互関税および積み替え関税により事業コストが膨らみ、原産地証明要件が厳格化されたことで、受注減少や競争力低下への懸念が高まっています<sup>4</sup>。

<sup>4</sup> <https://vietnamnews.vn/economy/1722033/viet-nam-s-manufacturing-sector-pushes-for-strategic-breakthrough-amid-global-shifts.html>

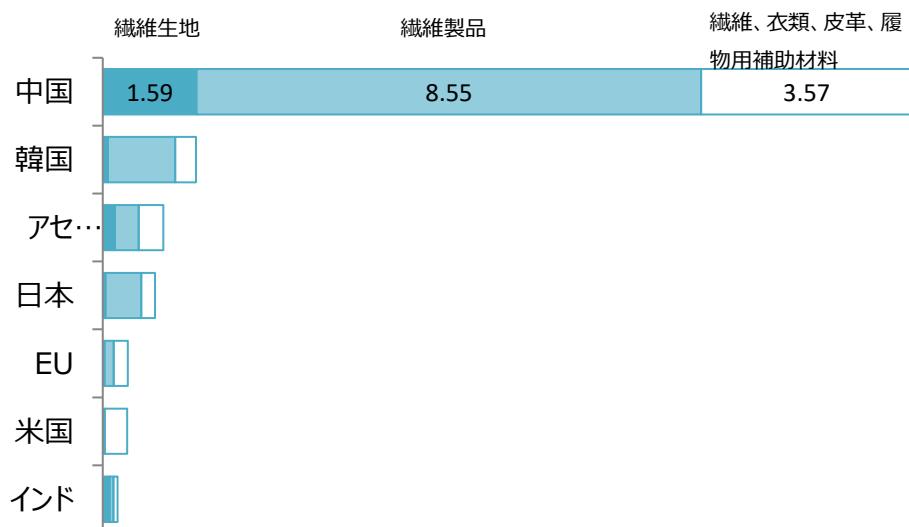
### (iii) 繊維・履物

繊維・履物産業はベトナム経済の主要産業の一つであり、輸出額は約 710 億ドルに及びます（2024 年）。このうち米国向け輸出が全体の 3 分の 1 以上を占めており、同産業は米国の関税措置や貿易上のコンプライアンス要件の影響を受けやすい状況にあります<sup>5</sup>。

原材料の調達に関して、2025 年 1 月から 10 月までの 10 か月間で、ベトナムは中国から繊維、織物、補助材料を約 137 億ドル相当輸入しており、同セクターが輸入品に大きく依存している実態が浮き彫りとなっています。

#### ベトナムの繊維・履物材料の輸入額（2025 年 1-10 月）

単位: 十億ドル



出所: [General Statistics Office](#)

繊維・履物メーカーは、生地や付属品において海外サプライヤー（主に中国、韓国）への依存度が極めて高く、この依存構造が原産地証明を複雑化し、コスト増大を招くとともに、貿易規制強化への対応における企業の対応力低下を招いています<sup>6</sup>。

<sup>5</sup> <https://vir.com.vn/textile-garment-and-footwear-see-export-turnover-of-71-billion-120729.html&link=autochanger>

<sup>6</sup> <https://www.rmit.edu.vn/news/all-news/2025/may/impact-of-us-tariffs-on-vietnams-textile-clothing-and-footwear-sector#:~:text=The%20textile%2C%20clothing%20and%20footwear,tariff%20rates%20have%20raised%20concerns.>

## 米国関税制度下におけるベトナムのサプライチェーン転換と日本の役割

米国の積み替え関税は、「輸出の堅調な伸びは依然として輸入原材料、特に中国からの輸入に大きく依存している」、ベトナム製造業が共通して直面する課題を明確にしました。この課題は事業リスクを高め、コストを押し上げ、他の国々の政策の影響を受けやすい状況を生み出しています。電子機器分野は、製造工程における付加価値創出が依然として組み立て工程に集中していること。機械分野は、外国製機械・材料への依存が自国技術の発展を阻害していること。繊維・履物分野は、輸入生地への強い依存が原産地証明を複雑化させていること、など、業種ごとに影響は異なるものの、いずれもトレーサビリティの向上、現地調達率の引き上げ、バリューチェーンの上流工程への移行という同様の課題に直面しています。同時に、この新たな関税環境はベトナムに必要不可欠な変革を促しており、産業の強化、生産基準の向上、そしてより透明性の高いサプライチェーンの構築を後押ししています。

この移行プロセスにおいて、日本企業は特に優位な立場にあり、ベトナムのサプライチェーン高度化に貢献すると同時に、その恩恵を受けることが期待できます。日本企業は工程管理、透明な書類管理、サプライチェーンのトレーサビリティ強化で高い評価を確立しています。こうした強みは、原産地証明や貿易要件と一致します。グローバルメーカーがサプライチェーンの多様化を進める中、日本企業は特に高品質素材、特殊繊維製品、精密部品、産業機械などの分野で、中国のサプライヤーが不足する部分を補完することが期待されます。また、ベトナムの政策環境の改善がこの変化をさらに後押ししています。産業奨励策、継続的なインフラ整備、CPTPP や RCEP などの貿易協定への加盟により、ベトナムは高付加価値製造業にとってますます魅力的な拠点となっています。JETRO の調査でも、多くの日本企業がベトナムでの事業拡大を検討しており、現地調達やサプライヤー育成に一層注力する意向が示されています。

これらの動向を総括すると、日本はベトナムがより信頼性が高く、透明性があり、規制に準拠したサプライチェーンを構築する上で重要なパートナーとなりつつあると同時に、変化する米国の関税環境下における長期的な付加価値創出を支援していくことが期待されます。